



学校名: 埼玉県立伊奈学園総合高等学校

氏名: 箱田 恵梨香

[担当教科: 国語]

● 実践教科等: 国語表現

● 時間数 : 6時間

● 対象生徒 : 高校3年生

● 対象人数 : 25人

1 単元名

国際協力について考える

2 単元の目標

- ・課題解決をするために、異なる立場の意見も尊重しながら積極的に話し合いに参加する。
【進んで参加する態度】【他者と協力する態度】
- ・自分と他者のもつ情報を統合・精選し、さまざまな視点で思考する力を身につける。
【多面的、総合的に考える力】
- ・自分の考えを伝えるために効果的な言葉を用い、伝え合う力を高める。【コミュニケーションを行う力】
- ・開発途上国の諸課題にはさまざまな要因が複雑に絡み合っていることや、途上国と日本が相互依存の関係であることを理解する。
【つながりを尊重する態度】
- ・与えられた情報をもとに、今後の国際協力のありかたとともに自分にできることを検討する。
【未来を予測して計画を立てる力】

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・ひとつの課題に対して、さまざまな立場の人々の意見があることを知る。【多様性】
- ・国際化が進む現代社会においては、開発途上国の問題も日本とつながりがあることを理解する。【相互性】
- ・世界の富の不平等な分配に気づく。【公平性】
- ・課題解決のためには、自分だけでなく異なる立場の他者とも連携し、対等な立場を構築していくことが必要であることを理解する。【連携性】
- ・自らの役割を見つけ、自覚し、責任を持って意見を述べる。【責任性】

4 単元の指導について

(1) 教材観

1学期の学習は「効果的に書く」ことを主眼に置き、自己紹介文・要約文(「疑似科学」)・小論文(「高齢化社会」「災害ボランティア」「英語教育」「高等学校における部活動のあり方」)・志望理由書の作成とその相互評価などを行った。2学期は1学期の書く経験をもとに「効果的に話す」ことを主とし、これまでにブックトーク(テーマを決めて複数の本を紹介すること)・資料を用いたディベートを行った。生徒は発表や話し合い活動の中で、その場に相応しい言葉を用いて自分の意見を的確に伝えようとしていた。2学期当初のアンケートでは、今後取り上げてほしいテーマとして「東京オリンピック」・「死刑廃止の是非」・「選挙権引き下げについて」「安保条約」「国際化」などがあげられたので、「死刑廃止の是非」・「選挙権引き下げについて」についてはディベートの論題とし、「国際化」を単元として取り上げた。余談として、ザンビアが前回の東京オリンピックの開催中に独立したことは授業でふれた点ではある。

これまでの学習をふまえ、当単元では適切な言葉を用いて他者と合意形成を目指すこととした。貿易ゲーム、「1枚の看板」、ジグソー法はいずれも他者との関わりが不可欠な学習形態である。相手の立場を尊重し異なる意見に耳を傾ける必要がある。妥協せず自分の意見も十分に伝えなくてはならないので、これまでの活動より最も難易度の高いものになり、既習範囲のまとめの位置づけとなる。

以上の観点より学習指導要領の国語表現の目標である「国語で(1)適切かつ効果的に表現する能力を育成し、(2)伝え合う力を高めるとともに、(3)思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる」の(1)～(3)の能力の育成をしていく。

(2) 生徒観

該当講座は異なる HR の生徒が混在し、学期当初は生徒同士もほぼ初対面であった。4 月当初のアンケートでは、国語表現を履修した理由について 1 番多かったものが「人前で意見を述べたり、話したりすることが苦手だから」、次いで「文章(小論文)の書き方を学びたいから」であった。多くの生徒は立場の異なる人との話し合いや、あらたまった場での発表に苦手意識を感じているようであった。対照的に積極的に意見を述べたり、文章を書くことが得意で好きだという生徒も 2～3 名いる。

学習へは多くの生徒が意欲的に取り組むことができる。一方で成果をいそぐあまりに物事を短絡的に考えがちなのも見受けられる。

〈事前アンケート結果〉

問 日本と「開発途上国」において、つながりを感じる事柄があれば自由に書いてください。

・日本企業(工場など)が途上国に進出している。・南アフリカなどへの技術伝達。・貧しい国や地域に日本企業の工場を作ってもらい、現地の人に働かせるイメージ。・日本の中古の電車車両を使っているところをテレビで見た。等

問 日本は開発途上国を積極的に援助すべきだと思いますか。

ア 積極的に援助すべき

・援助をした国が将来大きくなったら日本に利益がある。・世界をひとつの国と考えた時、同じ人(人間)なのに生活の水準が違うのはおかしいと思う。・日本は財政的に厳しいと思うが、援助は金銭だけではないと思うから、できる範囲の支援を送る、貸すというのがいいと思います。・もともと資源がなかったりと国同士で不平等な面があり、その国の努力だけでは豊かな国と差が出るし、同じ人間としてできるだけ多くの人々が豊かに暮らせたらいと思うから。・日本が技術をもっているから、その国の環境や需要にあわせて援助するべきなのかなと思いました。・災害時に援助されているので、相手が苦しんでいるならば援助すべきである。しかし、日本は国家の赤字が是正されないで、自分の首をしめない程度に、ということは念頭に置く必要があると思う。

イ 特に積極的にやらなくてもよい

・日本も現在大きな借金を抱えているし、貧困で苦しんでいる人も多くいるので、他のところに力を貸している場合ではないから。(理由なし)

ウ 分からない

・発展するか未知だから。・具体的な援助の方法がわからない。・自分の国の現状を無視してまでやる必要はなさそう。・発展途上ということは見返りは豊富に見込める可能性が高いが、それを貧しい国の援助に充てることも考慮すべきだと思う。外交と国富に関するジレンマがあると思う。・援助したことによるトラブルはなかったのか。

(3) 指導観

あくまで国語科の授業であるので、国際協力の現場を「知る」ことが最終的な目標ではないことに留意し、内容説明は最低限に抑えたい。どのような結論が出たかよりも、どのように結論を導きだしたか、その過程に着目したい。

5 評価基準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	自分の考えを適切な言葉で表現しようとしている。	相手の考えや異なる考えを尊重し、自分の考えを深める。自分の考えをまとめ、適切な言葉で表現できる。	これまでの学習事項をふまえ、相手に分かりやすく伝えるように工夫ができる。	様々な考え方ができる事柄について、主張が伝わるように、情報を活用し、論理の構成を工夫できる。
評価方法	・机間支援における観察 ・プリント ・発表	・机間支援における観察 ・プリント ・発表	・机間支援における観察 ・プリント ・発表	・プリント ・発表 ・ペーパーテスト

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1 ・ 2	経済の自由化から見える国の格差	適切な言葉を通じて、他者と関わり合う。 ゲーム中に発生した出来事について考察し、現代社会での貿易における諸問題を考察する。 ゲームを通じて考えたことを発表しあい、自分の考えを深める。	「貿易ゲーム」を用いて世界の貿易を疑似体験することにより、自由貿易や経済のグローバル化によって発生する諸問題について考える。
3 (40分)	発展途上国とは	発展途上国の現状を知る。 日本は途上国に支援すべきかを考える。 相互依存率のデータをもとに、言葉遣いなどを工夫して自分に意見を述べる。	発展途上国と日本との相互依存の現状を知る。日本が2011年に世界最大の被援助国であったこと、その背景にはこれまでの日本の多方面への援助が評価されていることを踏まえ、日本は途上国に積極的に支援すべきかどうかを考える。
4 (40分)	望ましい国際協力のあり方1	多角的な点からみた援助のあり方を探る。	『援助する前に考えよう』より「1枚の看板」のアレンジ版を使って、望ましい援助のあり方を考える。
5 ・ 6	望ましい国際協力のあり方2	JICAの国際協力のあり方を考察する 無償資金協力のメリット、有償資金協力のメリットを考察する。 自分の身のまわりでできる国際協力のあり方考える。	知識構成型ジグソー法を用いる。 A 無償資金協力の長所・短所 B 技術協力の長所・短所 C 有償資金協力(円借款)の長所・短所 ②班替えをし、1つの班にA～Cの課題を行った生徒が少なくとも1名は入るようにする。 ジグソー活動では、「ザンビアの教育の質を向上させる」をもとにA～Cの意見を精選・融合し優先順位をつけさせ、自分の考えを深める。

※1・3・5時限は授業の冒頭に漢字小テスト、新聞記事要約を実施している。

7 授業事例の紹介

小単元名【日本の国際協力のあり方を考えよう】

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月25日(水)第6限

(イ)実施会場 6J教室(第6ハウス2階)

(ウ)本時の目標

班別学習を通して、国際協力のあり方への理解を深め、よりよい援助の方法を考える。

(エ)指導のポイント

- ・各援助の種類について、その長短所を授業者が説明するのではなく、生徒同士の班活動の中から気づきを得させる。
- ・班ごとの進行状況を観察し、より深い思考に結びつくよう適宜支援をする。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
5	前時の内容を振り返らせる。	自分の班でどのような意見が出たか、隣席の生徒と共有をする。	前回の生徒の意見を、スライドに映す。	
10	日本の支援のあり方	ODA、JICA、JICAの実施している3種類の援助(有償資金協力・無償資金協力・技術協力)の概要を知る。	スライドを使って説明する。社会の授業で既習の四職などは生徒に尋ねる。できるだけ速やかに移動するように適宜声をかける。	
5	ジグソー法実施のための班づくり①	トランプを引き、引いた数の班へ座席を移動し、4人×6班になる。じゃんけんで勝った生徒から時計回りに30秒間で自己紹介をする。		班員と時間に気をつけながら、話ができているか。
20	ジグソー法① (エキスパート活動)	A～Cの課題のうち、無作為に与えられた1種類について班毎に考察する。 A有償資金協力の長短所 B技術協力の長短所 C無償資金協力の長短所	理由・根拠を明確にするように声をかける。適切な言葉で意見を伸べるよう注意を促す。	班の活動に積極的に参加しようとしているか。考えたことを適切な言葉で表現できているか。
3	ジグソー法実施のための班作り②	トランプを引き、引いた数の班へ座席を移動し、3人×8班になる。	できるだけ速やかに移動するように適宜声をかける。	
7	エキスパート活動の報告	A～Cの順に、自己紹介とエキスパート活動の報告をする。	聞き手がメモを取りやすいように注意を促す。	分かりやすい言葉で表現できているか。
3	1時限目終了 2時限目開始 ザンビアの概要説明	授業者の話とプリントによって、ザンビアの基本的な情報を得る。 A・B・Cが1人ずつ入った班を構成し、前時の各自の活動を踏まえて課題に取り組む。 課題「ザンビアの教育の質を向上させるには」	新しい課題を配布する。5分経過しても報告をしている班には、問いにとりかかるよう促す。机間を周りながら、適宜声をかける。	自分の班の報告について、場に応じた言葉遣いをし、分かりやすく話そうと工夫しているか。
20	ジグソー法② (ジグソー活動) 3つの援助の特長についての理解	他の班の発表を聞いて考えを深める。	各班の発表の要約を板書する。	
10	各班の発表	援助の実際を知る。	班の発表でタイド付援助の案が出た場合は、取り上げて解説をする。 スライドを使って説明する。	プリント
10	ザンビアでのJICAの支援内容	国際協力のあり方について自分の意見をまとめる。	事前アンケートとの関連性を持たせ、授業前後での生徒の変化を測ることができるようにする。	
7	今後のよりよい支援のあり方			

(2) 授業の振り返り

[良かった点]

- ・日本の援助について、関心を持たせることができた。
- ・途上国との日本との相互依存の関係を理解させることができた。
- ・生徒同士のやりとりを通じて、各援助の種類の長短所を考えさせることができた。

[改善点]

- ・課題「ザンビアの教育の質を向上させるには」の「教育の質」の定義が曖昧で、考えにくいものになってしまった。→明確な定義づけや論点を絞った課題への変更が必要。
 - ・途上国の人々についての情報が不足しており、教師の授業能力の低下の要因を深く考察させることができなかった。→途上国の人々のおかれている状況を、説明することが必要。
 - ・ザンビアの教育の現状と課題の説明において、授業者が「教員の質の低下も大きな問題」と説明をしたことで、生徒の多くが「教師の質を上げるために」直接的な援助ばかりを選ぶ結果になった。
- 課題に取りかかる前に、途上国の生活の状況を具体的に喚起させることが必要。

(3) 使用教材

- ・『貿易ゲーム』
- ・『援助する前に考えよう』



(4) 参考資料等

- ・『読売新聞』2015.11.17、朝刊「新興国の発展 G20 課題 貧困とテロ 負の連鎖」
- ・『世界と恋するおしごと—国際協力のトビウ』山本敏晴、小学館、(2006)
- ・『援助する前に考えよう』斉藤聖 編、開発教育協会(2006)
- ・『高校生のための国際協力入門』秋田市立秋田商業高等学校ビジネス実践国際協力課、アルテ (2008)
- ・『国際協力 新版—その新しい潮流 (有斐閣選書)』下村 恭民他、有斐閣(2009)
- ・『高校生のためのアフリカ理解入門』(秋田市立秋田商業高等学校ビジネス実践国際協力課、アルテ (2010)
- ・『世界で一番いのちの短い国—シエラレオネの国境なき医師団 (小学館文庫)』山本敏晴、小学館、(2012)
- ・『「国際協力」をやってみませんか?』山本敏晴、小学館、(2012)
- ・『開発教育実践ハンドブック』西あい 編、開発教育協会(2012)
- ・『国際理解教育実践資料集』埼玉県総合教育センター 監、廣済堂(2013)
- ・『ODA(国際援助)白書 2014 年度版』外務省、(2014)
- ・『ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら 第4版』(2014)
- ・『新貿易ゲーム』開発教育協会 (2014)
- ・『若者と学ぶ ESD 教育』田中治彦 編、開発教育協会(2014)
- ・『貧困を救うテクノロジー』イアン・スマイリー、イースト・プレス、(2015)
- ・JICA/「ODA が見える。分かる」<<http://www.jica.go.jp/oda/index.html>> (2015.11.10)
- ・外務省/「国別・地域別政策情報」<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/index.html>> (2015.11.10)
- ・外務省/「ODA ちょっといい話」<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/index.html>> (2015.11.10)
- ・ザンビア日本国大使館/「ザンビア日本国大使館」<<http://www.zm.emb-japan.go.jp/ja/yomoyama/2012.10.02.htm>> (2015.11.10)

8 単元をととした生徒の反応/変化

授業後のアンケートより一部抜粋

問、授業を通しての感想を書いてください。

- ・社会科目の授業で「情報」として覚えたりすることはあっても、「感覚」や「当事者」として向き合うことはなかったので身になりました。
- ・自分の考えや思っていることを適切な言葉で表現することは難しいと思った。
- ・1つの視点にこだわらず、様々な角度から考えることの大切さを学ぶことができた。
- ・国際協力

は積極的にすべきだと漠然と考えていたけれど、授業を通してデメリットも多くあるのだということに気がついた。・一見善意であるものでも、深く読み解くとアラがでてきたりするという点で、相手が何を求めているかを推し量る必要があるか分かりました。・その地域にあった方法があるから、日本にとって良いことではなくて、支援を受ける国にとっての良いことをするべきだと改めて思いました。特にザンビアの問題では、とても現実的であったこともあり、「どうにかして良くしてあげなきゃ」と無い知識を振り絞り考えました。それと同時に、自分が今どれだけ恵まれた環境にいるかを痛感しました。・ザンビアの教育の質の向上では様々な援助方法を学び、様々な視点から考えることができた。ただ、1つの援助方法を選ぶと、そのデメリットをどうカバーしたらいいか分からず、なかなか決められなかった。

問 あらためて日本は開発途上国を積極的に援助すべきだと思いますか。

ア 積極的に援助すべき

- ・日本は不況かもしれないけれど、生活レベルは世界でみるといい方であるから。・将来的にはお互いに助け合うことができる関係になるかもしれないから。・以前は何も知識が無かったので、「わからない」にしていたけれど、援助をした国が日本が震災などで大変な時、自分たちも大変なのに募金をしてくれたという話を聞き、心が温かくなったとともに、少しでも他の国のお手伝いができたらと思ったから。
- ・日本国内の問題も大切だが、助けてもらうこともたくさんあるから。・日本はお金を払えば何でも手に入る国だけど、開発途上国はお金を払っても十分な食べ物や水道・電気が手に入らないから、助けてあげるべき。・開発途上国は自国が貧しいにも関わらず、東日本大震災の際は募金などをして助けてくれたから、お互いに協力すべきだと思った。・教育水準があがり、国が発展すれば貿易のパートナーになれるかもしれないから

イ 特に積極的にやらなくてもよい

- ・頼まれたらやる、でよい。・積極的すぎない、ほどよい位に。

ウ 分からない

- ・困っている国があれば、支援すべきと思っていたけれど、日本の政治にも影響が出る可能性があるので、援助のしかたをよく考えるべきだと思う。・この授業を通して、日本側にメリットもデメリットもあることが分かったので。・自分の国の問題もあるかもしれないが、今回の授業で勉強したくてもできない人がいたり、物がないなど、自分達の何倍も大変な思いをしている人達を日本だけに限らず、色んな国とともに助けるべきだと思う。・良いこともあったし、そうでないこともあった。一概には言えないけれど、「援助すべき」寄りの「分からない」

問 なぜ JICA は「国際援助機構」ではなく、「国際協力機構」なのだと思いますか。

- ・「協力」という言葉から、あくまで関係は対等であることを示しているから。「援助」だと常に上下関係が生まれ、いつまでも自立できない印象があるから。・一方的で不必要な助けではなく、途上国の自主性やニーズに合わせて活動を、力を合わせて達成することが真の救いになると思うから。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

[成果]

- ・物事を多角的な視点から考えるためのきっかけを作ることができた。
- ・一つの課題に対して、他者の意見もふまえて合意形成に至る過程を経験させることができた。
- ・議論をする中で、自分意見を分かりやすく説明しようと工夫させることができた。
- ・途上国とのつながりを知る機会を作ることができた。
- ・限られた情報から、望ましい国際協力について自分の意見を述べることができた。

[課題および改善策]

- ・考えるにとどまった感がある。授業後に行動できているかを考えると、難しい。理解、思考、行動の「行動」ができるよう教科の枠を越えて他の授業と連携を取りながら進めたい。

10 教師海外研修に参加して

これまで個人的に海外ボランティアに参加してきたが、そういったツアーでは立ち入れない場所に足を踏み入れることができた貴重な機会であった。一番の成果はザンビアという縁遠いと思っていた国に、日本が多くの援助をしていたことを目で確かめることができたことである。一方的な「援助」ではなく win-win の関係にある「協力」のあり方や現地で働く方々の姿には、自分自身心打たれるものがあった。研修中の毎日の振り返りでは経験豊かな他校の先生方を意見を交わすことができ、自分の考えを深めることができたのも大きな収穫である。今後ますます国際理解・開発教育の普及が重要になってくる。国語科教員としてその一翼になれるよう、日々挑戦していきたい。



学校名: 自由の森学園中学・高等学校

氏名: 松村美緒

[担当教科: 英語科]

- 実践教科等: 英語科
- 時間数 : 4時間
- 対象生徒 : 高校2年生
- 対象人数 : 55人

1 単元名

英語で世界に出会う

2 単元目標 (ESD の能力・態度)

- ① ザンビアの歴史や人々の暮らしについて知り、自分たちとは異なる環境で暮らしている人々やその文化を理解しようとする姿勢を育む。【多面的総合的に考える力】
- ② ザンビアの水事情から自分たちの生活に立ち返り、今まで当たり前と思っていたことはそうでないことに気付く。【批判的に考える力】
- ③ ザンビアと日本の様々なつながりや JICA の取組を知り、日本と世界のつながりについて考える。【つながりを尊重する態度】
- ④ ザンビアの子どもたちの大切なものを知り、同時に自分の大切なものを英語で表現することで、自己を見つめる【コミュニケーションを行う力】

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・ザンビア共和国の歴史や人々の暮らしから世界には様々な文化があることを知り、世界への興味・関心を高める。【多様性】
- ・ザンビアの子どもたちの大切なものを読み解くことで、住んでいる環境が異なっても自分たちに通じるものがあることに気付く。【相互性】
- ・JICA のザンビアでの取組や日本が被支援国だったことから、日本と世界とのつながりについて考える。【連携性】

4 単元の指導について

(1)教材観

本単元では、授業者の体験やザンビアの人々のことばを理解しやすい英文に書き直し、それらを音読活動や内容読解を通して学習していく。それは授業者自身が、本学園の英語科が大切にしている英語において自分のことばで表現することに取り組み、それをもとに生徒が英語を通して世界に出会うことをねらいとしているからだ。生徒の興味・関心を引き出すために、授業者が現地で撮影した写真や購入したものを教材として効果的に活用していく。

(2) 生徒観

本学園では各教科の切り口で「なぜ」という問いを生徒に投げかけ、共に考える時間を大切にしている。そうした問いに自分自身が向き合い、自分とは異なる考え方をを持ったクラスメイトと意見を交わしながら、自分の考えをつくっていくことを重要視している。日常の授業の中で生徒から授業者やクラスメイトに様々な疑問を投げかけることが多くあり、そうしたことから今の社会で起きていることについても同様に興味・関心を持つ生徒たちも多にいる。

(3) 指導観

ザンビアという国を歴史、文化、人々の暮らしや考え方などを様々な切り口から見ていくことで、世界には多様な人々の暮らしや生き方があることに気付くことをねらいとする。そうした気付きや新たな視点は生徒たちの何気ない日常や自分が当たり前と思っていたことを改めて見直すきっかけとなる。そして、最終的には自分の大切なものは何か考え、英語で表現していくことで自分を見つめていく。また、授業を展開するにあたって、ザンビアの歴史や文化など大きな切り口から入り、最終的には自分の価値観を見直すことが Think Globally, Act locally につながると考えている。また、以上の内容を英文を読み解くことで理解し、英語を通して世界とつながることもねらいとする。

5 評価基準

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語の理解能力	言語・文化についての知識・理解
評価規準	音読活動に積極的に参加しているか。 また新出単語であっても前後の文の内容から予想し、理解しようとしているか。	自分にとって大切なものは何か考え、自己を見つめながら、英語で表現できたか。	ザンビアの人々の暮らしや考え方について英語を聞くこと、読むことを通して理解しているか。	異なる文化や人々の暮らしに対して興味を示し、JICA の活動などから日本と世界とのつながりを理解出来たか。
評価方法	授業中の発言・学習の様子・プリントへの取り組み状況			

6 単元の構成 ※太枠の授業内容詳細を「7授業事例の紹介に記載」

時限	小单元名	学習のねらい	授業内容
1 (40分)	ザンビアって どんな国？	・世界への興味・関心を高める。 ・日本とザンビアのつながりを紹介し、日本と関わりのある国であることを知る。	①ザンビアクイズ ②日本とのつながり ③ザンビアの文化(衣食)
2/3 (90分)	英語で世界を 読み解こう	・ザンビアの水事情について理解する。 ・JICA の存在や取組を知り、日本も被支援国だったことから世界と日本のつながりを考える。 ・ザンビアの国標である One Zambia One Nation から相互理解を考える。	①ザンビアの水事情 ②安全な水が手に入らないことで生じる問題について ③JICA について ④ザンビアの国標 One Zambia One Nation とは
4 (40分)	英語で表現しよう～What is the important thing for you?～	・ザンビアの子どもたちが答えた「大切なもの」から、自分たちと共通するものがあることに気付く。 ・自分が大切なものは何か考えることで自身の価値観を見つめ直す。	①ザンビアの子どもたちが大切にしているものを表した英文を読み解く。 ②自分にとって大切なものを英語で表現する。

7 授業事例の紹介

(1)指導案

(ア)実施日時: 12月14日第5,6限(90分間)

(イ)実施会場: 高校2年2組

(ウ)本時の目標

- ①ザンビアの水事情を理解し、安全な水が手に入りにくい人々の生活を想像する。
- ②JICA の取組を知り、日本がザンビアの人々の生活を陰ながら支えていることを知る。また東日本大震災の時には日本も被支援国であったことから世界とのつながりを考える。
- ③ザンビアの人々が大切にしている標語 One Zambia One Nation から相互理解を学ぶ。
- ④上記のことに関する英文を読み解くことで、様々な単語に出会うことで語彙を増やし、音読活動を通して、意味のまとまりにそって発音出来るようになる。

(エ)指導のポイント

新出単語が含まれているため、意味の説明や発音を丁寧に確認する。また、すぐに和英辞書を引かずに、文章の脈絡から意味を想像させることを喚起する。

(オ)本時の展開

過程・ 時間	指導内容	学習活動	指導 形態	指導上の留意 点	評価 (評価規準・ 評価方法)
導入 (5分)	【前回の復習】 ザンビアってどんな 国？	ザンビアの基本的な情報 を振り返る。	一斉		発言
展開 ①ザン ビアの 水事情 (50 分)	【英文読解①】 1 ザンビアの教科書 の How to make safe water to drink を読解 し、ザンビアの水事情 を紹介する。 2 安全な水が入らな いことによって生じる 問題を考えさせる。 【JICA の紹介】 視察先の給水案件を 紹介する。	・本文を音読・読解する。 ・各家庭に水道が整って いないため、川の水を飲 料する場合があることを 知る。 ・水汲みがいかに重労働 かを想像する。 ・2によってどのような問 題が生じるか考える。例) 感染症にかかる。 ・JICA の取組を知る。 ・東日本大震災発生時は 日本も被支援国だったこ とを知る。	個人 ・ 一斉	プリントを使用 する。 同時に普段自 分たちが消費し ている水の量を 想像させる。	プリントや 音読活動 への取り 組み 発言
②ザン ビアの 国標に ついて (30 分)	【英文読解②】 ザンビアの国標である One Zambia, One Nation にこめられた想いを英 文で読解・音読する。	・本文を音読・読解する。 ・国標の意味を知る。 ・部族や言語、習慣の違 いを越えて、ザンビアの 人々の心にこの言葉が刻 まれていることを知る。	個人 ・ 一斉	写真を提示す る。	プリントや 音読活動 への取り 組み
まとめ (5分)	【まとめ】 本時の感想を記入。				

(2)授業の振り返り

本時では、ザンビアの人々の暮らしを水という切り口から見ていくことで、生徒たちはそこからザンビアの課題と JICA の取組について理解することが出来た。またザンビアの人々の根底にある大切にしている言葉とそれに込められた意味を英語を通して理解することが出来た。しかし、本時では展開の内容が2つあったため、生徒たちがインプットする内容が多くなってしまった。そのため、それぞれの内容の理解を深める時間が足りなかった。焦点を一つにしぼることで、生徒がインプットした内容から考える時間やその内容をクラスで共有し、議論する時間を設けることが出来たであろう。また、本単元では新出単語も多くあったため、それらをまとめるプリントを単元のまとめとして用意するべきであった。(今回は時間数の関係上、省略。)それを活用することで新しい語彙を振り返りながら、学習内容を振り返ることが可能になるであろう。

(3)使用教材(本時で配布したプリント)

【英語で世界を読み解こう】 H2- Name: _____

Let's read a textbook from Zambia

以下の英文を読んで本文の内容にふさわしい日本語を()の中に入れよう！

How to make safe water to drink

Many homes don't receive safe water from the town's waterworks.
多くの家庭は町の(1) _____ から安全な水を受け取っていない。

So when we take water from rivers, we should purify it before drinking.
そのため、(2) _____ から水を取ってきた際には、飲む前に(3) _____ しなければならない。

First, pass water through a clean cloth and remove any suspended materials.
まず、清潔な布に水を通し(4) _____、浮遊している物質を(5) _____。

Second, boil it for ten minutes at least to kill the bacteria.
次に、熱湯を(6) _____ ために少なくとも10分間沸かす。

Water in Zambia

37% of Zambian people can't get safe water.
安全な水は手に入らないことで生じる問題とは？

Japan supports Zambian people

【聞き取り】日本がザンビアに対して支援していることは？
JICA ※ built (1) _____ and kiosks in Zambia.
People can get safe water from them. JICA supports over (2) _____ countries.
※ JICA = Japan International Cooperation Agency

Important motto for Zambian people



The motto of Zambian people is

One Zambia One Nation.

どんな意味が込められているのだろうか？

One Zambia One Nation に込められている意味とは？
日本語の意味と照らし合わせ、()の中にふさわしい単語を下の選択肢の中から選んで埋めよう！

We have 73 (1) _____ in Zambia and we have different languages and cultures.
ザンビアには73の国語があり、それぞれ異なる言語や文化を持っている。

But we belong to the same country. So, we don't (2) _____ about the differences
けれども、みな同じ国の一員。だからその違いは問題ではない。

"One Zambia One Nation" (3) _____ that we all make One Zambia.
One Zambia One Nation が意味するのは、私たち一人ひとりがザンビアという国をつくっているということ。

So, we (4) _____ and (5) _____ each other.
だからこそ、私たちはお互いを助け入れ、尊重している。

And we are (6) _____ of this motto.
そしてこのモットーは私たちの誇りである。

[proud, accept, tribes, respect, means, care]

【今日の授業内容で印象に残っていること、感じたこと、興味を持ったこと】

(4)参考資料等

『写真絵本 HIV/エイズとともに生きる子どもたち』 山本敏晴 小学館 2005

『水から広がる学び アクティビティ20』 特定非営利活動法人開発教育発行 2014

8 単元をととした生徒の反応/変化

【小単元①ザンビアってどんな国?】の感想

- ・ ザンビアという国を初めて知った。意外と日本とのつながりがあったて驚いた。
- ・ ザンビアのご飯はすごく美味しそうに見えた。他にどんな食べ物が有名なのを知りたい。

【小単元②英語で世界を読み解こう】の感想

- ・ 私たちは当たり前安全な水が手に入るからこそ、水が大切なものであるという感覚が薄れている。
- ・ 日本も同じようにお互いを認め合えたら、何か変わるかもしれない。
- ・ One Japan One Nation になるためには、私たちに何が必要なんだろう。
- ・ ザンビアの人々の考え方にすごく感動した。モノにあふれた私たちも豊かな考え方だなんて思った。

【小単元③英語で表現しよう～What is the important thing for you?】

- ・ 家族や友達が大切と感じる気持ちは世界共通なんだ。
- ・ ザンビアの人々に関わらず、大切なものはみんな同じ。
- ・ ザンビアの様々なことを知り、もっとザンビアのことや他のアフリカの国のことも知りたくなった。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

生徒の感想や授業に取り組む姿勢から、他国の文化や人々の暮らしへの興味・関心が高まり、また様々な「違い」から自分たちの生活や考え方を見つめ直す姿が見受けられたので、単元目標の①②④に関しては達成出来たと言える。しかし、③の「日本と世界のつながりについて考える」ことにおいては、そこまで深めることが出来なかった。また高校生であれば、世界で起きていることに対して自分の出来ることについても考え、英語で表現することも出来たであろう。今後はその点を改善できるような教材づくりと授業実践に励みたい。

10 教師海外派遣研修に参加して

現地で出会った子どもに好きな教科を尋ねると、「英語が好き。こうやってあなたとお話することが出来るから。」と恥ずかしそうに答えてくれた。私が英語を学び始めたのも彼と同じ気持ちがあったことを思い出させてくれた。英語を学ぶということは、世界の人と関わることができ、新しい価値観に出会い、自分の視野を自らの手で広げていくことが可能になること。このことを本研修で改めて感じた。そして、授業を通して、生徒に改めて伝えたいと思った。そして今回、研修の内容を教材化するにあたって、何を題材にし、焦点をあてるかを定めることに多くの時間を費やした。なぜなら、10日間という短い時間ではあったが、ザンビアという地で様々なモノ・人・コトとの出会いに恵まれたからである。自分の目で見えてきたことや感じたことを生かし、今後授業実践を積み重ねていきたい。